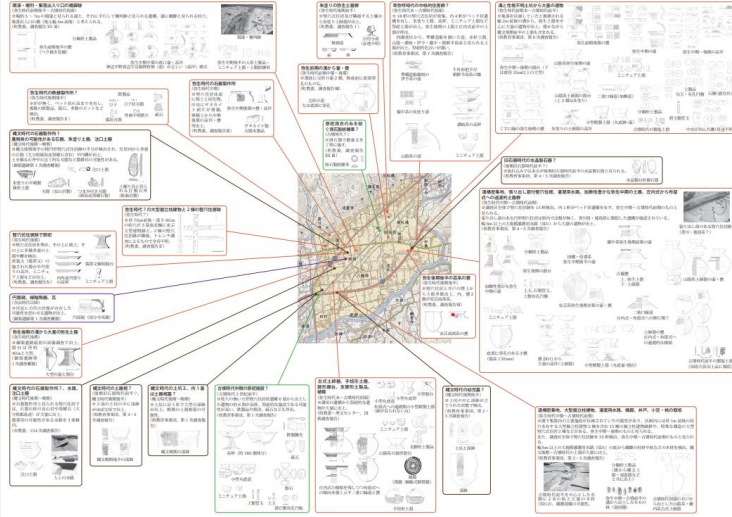


近年の御領の遺跡に関する発見とその可能性についての考察

金光学園高等学校歴史研究同好会 能宗仁

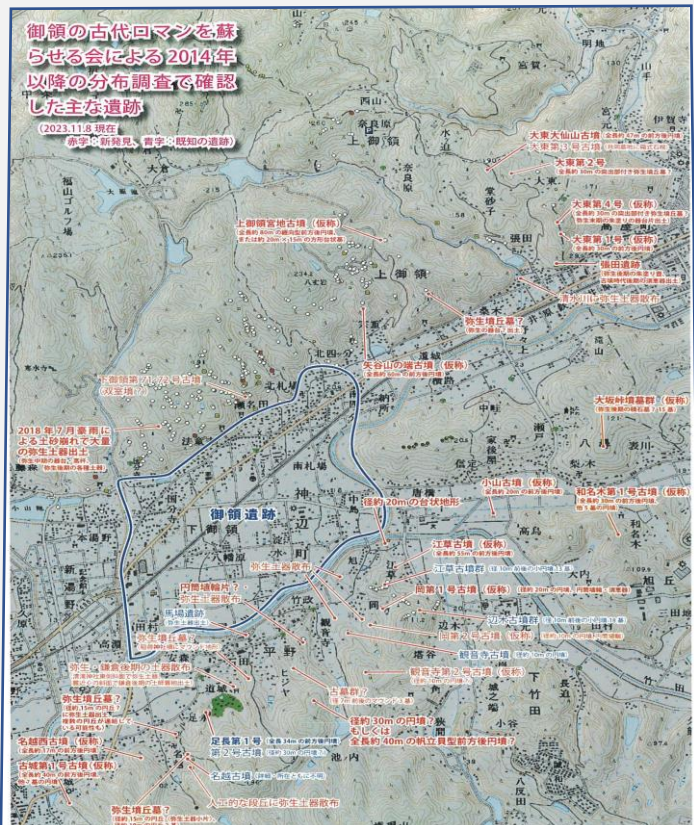
はじめに

県で第2の都市、福山市は歴史的に古代より陸海路の交通の要所として栄えていたことで知られている。そのベッドタウンである神辺町には縄文時代から古墳時代の間にかけて繁栄した大集落跡の御領遺跡、その北側の丘陵には10個の古墳群（古墳約240基）から成る御領古墳群が存在する。これらの遺跡については不明なことだらけで、地元有志「御領の古代ロマンを蘇らせる会」は、自ら古墳の測量や探索、情報発信を行い、御領の重要性を訴えている。金光学園のOBである会員の方の紹介で現地を訪れた私は当時の繁栄の面影を残した貴重な遺跡群に感銘を受け、会の協力の下これらについて調べることになった。



I 遺跡群の現状と課題

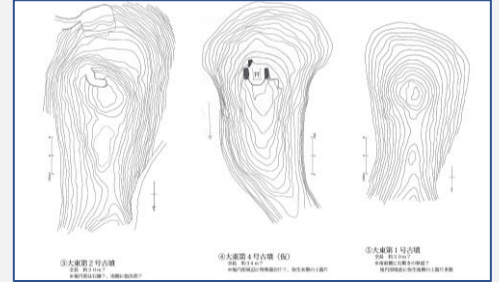
(1) 現状 御領遺跡の発掘により、弥生時代の環濠集落に関し竪穴住居100件以上が発見され、このころには大集落と呼べる存在であったことがわかっている。一方で、丘陵部に認められる御領古墳群のほぼ全てが未だ発掘調査が行われていない状況にある。また、会の探索で新たな古墳も次々に見つかりその数は増える一方となっている。



(2) 課題 数年前、市民調査によって丘陵部にバチ型前方後円墳と思われる地形を始め不定形な前方後円形とみられる地形が複数発見され、その内の二基には地表面に弥生土器と見られる土器片が確認されている。これまで発見された遺跡の状況からこの地は弥生時代からクニとして栄えていたと思われるが、神辺町周辺ではその独立性を象徴する王墓の存在が確認されていない。王墓発見のため、丘陵部の発掘調査を進めることが最も重要な課題であると考えられる。

II 大東古墳群の重要性

この御領の遺跡を弥生時代より独立したクニであると結論付ける材料として重要視されるのが大東古墳群である。大東古墳群の中で神辺町と高屋町の県境尾根沿いに分布する全長約47mの大東大仙山古墳を



はじめとし、大東第一号、第二号、（第三号は共同墓地造成により消滅）第四号古墳はいびつな前方後円形をしている。これらについては非常に興味深いことがわかっている。

興味深い点① 大東第一号古墳について、前方後円形の墳丘上に弥生後期前葉の土器片が見つかった。

興味深い点② 大東大仙山古墳の後円部上の祠に祭られている円礫が弥生墳丘墓上でよく発見される石主に酷似している。正式な調査で、これらが弥生時代のものであれば、歴代王の墳丘墓であるという事が証明され、クニの存在が認められることになる。



III 御領が与えた影響の可能性

(1) 讃岐勢力との関係 讃岐との積極的な交流は縄文時代から行われていたことがサユカイトの出土により知られているが、弥生時代になると、双方の墳丘墓に近い特徴が出てくるといことがわかった。見つかる土器が古すぎると指摘される大東古墳群と同じ状況が讃岐勢力の平尾墳墓群でもあったことが明らかになっている。こちらは公式の調査がされており、前方後円形で、弥生中期末の土器が見つかることがわかっている。この墳丘墓の類似性は当時の御領と讃岐の首長ぐるみの関係を疑わせる。

(2) ヤマト王権への影響 ヤマト王権はいくつもの勢力の影響を受けて誕生したと定説である。ヤマト王権誕生の地である畿内周辺の前方後円墳がバチ型であるのに関して、新たに御領の丘陵部で発見された周辺を弥生墳丘墓で囲まれたバチ型前方後円墳が、その弥生墳丘墓と近い時期のものであるならば、年代的に考えてヤマト王権よりも早いものだと考えることができる。これは御領の古墳がヤマト王権に伝わったものである可能性を示し、古墳の誕生の過程においても非常に大きな発見である。

おわりに

横穴式石室を発見したことから始まった「御領の古代ロマンを蘇らせる会」は、忘れられかけた歴史に光を与え、住民の方たちをまきこみ、いまでは地域を活気づける大きな役を担っている。また、その活動によってわかったことは多く、謎に包まれた古代神辺平野の全貌は少しずつ明らかになっている。今回の研究で、見つかった古墳は計り知れない可能性を持つことと、会の成果を最大限活かすためにも専門家による公式な発掘調査をおこなうことが何よりも大きな課題であることが確認できた。

謝辞

本研究にあたり、遺跡の案内とご助言いただきました御領の古代ロマンを蘇らせる会の佐藤武志氏に、心より感謝申し上げます。

参考文献および出典

「2018『大東古墳群～古墳時代の夜明け～』御領の古代ロマンを蘇らせる会」「1981～1999『神辺町埋蔵文化財調査報告』I～XXIII 神辺町教育委員会」「2020『弥生の首長墓群』御領の古代ロマンを蘇らせる会」 図1～3御領遺跡の遺物と遺構まとめ、分布調査で確認された主な遺跡、会による測量図（御領の古代ロマンを蘇らせる会） 図3円礫（能宗 仁）